

タグラグビーの戦術面に関する研究

内藤 研二 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード：新学習指導要領 タグラグビー

1. 緒言

2008年に改訂された小学校学習指導要領の解説体育編ではゴール型の従来のサッカーの他に新しい種目としてタグラグビー、フラッグフットボールが例示されている。サッカーでは90分のゲームのうち、1人のプレーヤーがボールを持つ時間はわずか2分程度であり、ボールを持たない動きが重要であるという報告がある。さらに、吉永はゴール型のゲームではボールを操作するだけでなくボールを持たない動きも、ゲームパフォーマンスの重要な要素であると提言している。タグラグビーについても、ゲーム中の作戦でボールを持たない人の動きが重要になると思われる。そして、ゲーム中に重要なボールを持たない人の動きをどのように決めているのかを研究の目的とする。

2. 研究方法

大津市内の小学校の6年生(99人)と同学校の4年生(88人)の児童を対象にアンケート調査を行った。タグラグビーにおけるゲーム中のボールを持たない動きに関する回答と記述を設けた。

3. 結果と考察

図1は、ゲーム中にボールを持たない時も多くあったかどうかの結果を表したものである。「まったくあてはまらない」「あてはまらない」を合わせると4年生52%、6年生67%という結果であった。このことから多くの児童がボールを持つ機会があったと考えられる。吉永は、小学生はボールに群がる傾向があり、ボールに触りたいといった思いがあると報告している。これらが影響し、ボールをもらうことが多かったと考えられる。また、作戦ではボールを持た

戦術学習 ボールを持たない動き

ない人の協力で得点につながったという質問に対し4年生「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせると57%、6年生「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせると68%という結果になった。パスをもらう順番を決めたり、自分の役割を明確にしたりして自分がどう動くか、はっきりするようになったといった報告もあり、このことからこのような高い結果が表れたと考える。

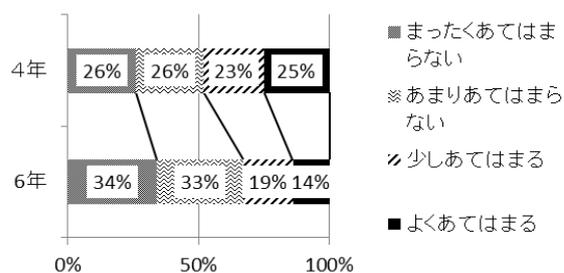


図1.ゲーム中にボールを持たない時も多くあった

4. まとめ

1. タグラグビーの授業において4年生では52%、6年生では67%とボールを持つ機会が多く示された。

2. ボールを持たない人の協力で得点につながったかどうかでは、4年生57%、6年生68%という結果であった。作戦を進める上でボールを持たない人の動きが重要な役割を担っていることがわかった。

参考文献

文部科学省(2008) 小学校学習指導要領解説 体育編 東洋館出版社

吉永武史(2009) ボールを持たない動きの習得を企図したサポート学習の実践モデル 体育科教育 57:11 大修館書店 pp.14-15